

麻雀漫画で読む **レミ**

episode of side-A



フライング東上

まえがきと注意事項

どうも、V林田です。

本シリーズは、『咲Sai』がいかに関存の麻雀漫画の文脈を押さえているかを証明する」という口実で、咲の各キャラなどと既存の麻雀漫画たちを延々とこじつけていくという、何と戦っているのかよくわからない本です。

10年の冬コミで出したシリーズ第一弾『麻雀漫画で読む咲Sai』（以下、「無印」）が、おかげさまで「奇書」「こじつけ」「何でこの本を咲Sai島で出してるんですか？」などなどご好評をいただいたので、聖地オンリーということで今回、第1・5弾を出すことになりました。

阿知賀編つばいサブタイトルですが、阿知賀をコンプしきれてはいないです。灼など現段階では打ち筋の全貌がつかめないキャラも多いですし、作品がひと段落するまでは全体を網羅したものはちよつと作れない。というわけで、つまみ食いのにキャラをピックアップしたものとなっています。いつかきちんと完全版を作りたいですね。

また、文中に登場する麻雀漫画で、無印で紹介しなかった作品については、巻末に紹介ページを設けております。巻末に載っていない作品については、無印の方の巻末をご参照いただきたい。

そして、巻末付録はネタ抜きめで書いていますが、本編に関しては、あまり本気で「咲は〇〇から影響を受けている」などと吹聴すると、恥をかくか狂人扱いされるかですのでお気をつけ下さい。

それと、相変わらず咲Saiの図版は一切使用しておりません。みんな単行本持つてるやろ。

高鴨 穂乃

阿知賀編主人公のジャージ痴女しずさん。

なんか木の上に登りまくっていたり、一人で山に入って遊んでいたりで、ネットなどではお猿さん扱いされています。

猿、猿……。そう、動物の中では、犬が麻雀が強いのは常識（無印の「須賀京太郎」の項参照）ですが、猿も意外と強いのです。

たとえば、『ぎゅわんぶらあ自己中心派』では、北海道のウツゴロウ動物王国の猿たちが、麻雀を打っております。



⇒『ぎゅわんぶらあ自己中心派』より、メンタンピン一発三色を和了る猿

また、『眠り玉三郎』でも、ご覧のとおり、野生の猿がやはり三色を狙って和了る腕前を見せております。



⇒『眠り玉三郎』より、やはり三色を和了る猿

もともと、どちらも「なかなかの腕」止まりであり、犬と違って絶対的な強者ではありません。このあたり、天才である咲さんとは違って、あくまでも凡人の主人公であるしずとも共通してると言えましょう……。

麻雀漫画でも屈指の強豪

である主人公、持杉ドラ夫相手にメンタンピン三色を和了っているあたり、その腕前はなかなかのものだと言えましょう。

鷺森 灼

レジェンド大好き灼さん。

幼稚園児の頃から大人たちと麻雀を打っていたことが語られています。なぜ、ボウリング場の娘さんが、小さい頃から麻雀を打っていたのか……。その謎を解くヒントは『天牌外伝』にありました。



↑麻雀が強い人間はボウリングでもアベレージ200アップは当然です

「俺達の世代の雀ゴロは 趣味と言えばボウリングとビリヤードだったからな」

「麻雀職人」と呼ばれる最強雀士・黒沢さんの言う言葉だから間違いないでしょう。麻雀とボウリングには意外な結びつきがあったのです……。

松実玄

阿知賀のエース（全国二回戦からこちら、いいとこが全然ないですが……）、ドラゴンロード玄さん。彼女の特徴といえば、ドラが集まりまくる体質であることは言うまでもありません。

イカサマ麻雀ならよく出る技ではありますが、サマ抜きでこのような強力（和了れば満貫以上はほぼ確定、一方で相手の打点は下がりまくりと、冷静に考えれば強すぎ）な能力を持つ雀士というのはいるものでしょうか。

います。

例えば、『ミリオンシヤンテンさだめだ!!』に登場する殿方プロ、通称「ドラ殿」です。

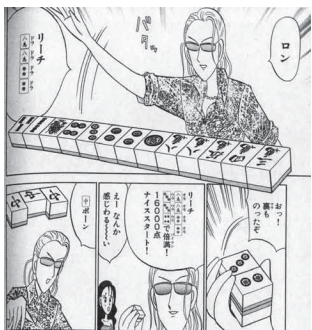


↑ドラ殿。説明のとおりです



↑ドラゴンロードの引きです

また、さだめだと同じく片山まさゆき作品である『まunchよくスナイパーとどめ』には、楽木という金持ちのボンボンが登場します。彼もやはりドラが集まる男（ドラ息子だから）。



↑登場時はとにかくドラがのる楽木さん



↑手牌全部がドラ（でも和了れない）

で、結局ここでドラを切って振り込んでしまい、以降はドラが全く来なくなってしまふのです。まさにドラロー。



↑ドラを切ったら、ドラ神様に見放されてまったくドラがなくなってしまう

うーん、この二人とも結局あまりいいとこなく負けちゃうあたり、能力がわかりやすく強力すぎるのが、逆に負けキャラとしての扱いを呼んでしまうものなのかもしれません……。

赤土晴絵

また、アニメEDでの玄さんが、スタンド能力の如き龍を現出させているのは皆さんご存知でしょう。「いくらなんでも本当にドラゴンを出すなんて……」とお思いの方もいらっしゃると思いますが、そういう方はこの、『ナイトストーン』の一シーンをご覧ください。



↑本作ではこの程度は常識的な描写の範囲です

これは、イメージ映像などではなく、作中の現実の光景です。

麻雀の強者であれば、龍のオーラを出すことなどたやすいことなのです。

電撃・稲妻・熱風、電撃・稲妻・熱風……（ドラゴンロードちがいが）。

プロリーグでドラが来ない局はないというほどのドラファイターであり、第1ツモから3連続でドラを引いてテンパイなどの離れ業を見せます。

個人的には阿知賀メンバーの中で一番好きなんですレジェンド。

何といいますか、自分の好きな道を真っ直ぐ進む（プロ雀士等）こともできず、かといって麻雀からすっぱり離れきることもできず、やっと実業団に入って時計の針が進み始めたと思ったらやっぱりうまくいかなかったりと、どうにもくすぶっているところが、いい年した身としては自分の今までの人生とかを色々考えさせられて、なんか、こう……。

さてさて、このレジェンドのような、麻雀への夢を持っていたがいまいちうまくいかず、若い才能たちの保護者となったキャラというものも麻雀漫画界には既にあります。それが、『メジャー』の影の主人公、高浜厚です。

高浜は、学生麻雀王者戦で優勝するほどの腕を持っていたものの、麻雀プロの現実に失望して麻雀の道を諦め、また、もう一つの道であった絵についても、自分にそれほどの才能がないことに気づいてしまつて挫折、故郷に帰って高校美術教師となり、

最終的には、手牌十四枚が全てドラ（でもあがれない）という状況にまで到達します。

やる気のない授業のかたわら生徒と麻雀をやつて過ごすというぬるま湯のような人生を送っていました。

しかしそんなある日、生徒の一人で、将来麻雀で生きていきたいと本気で考えている天才・若園と出会つたことで情熱が再燃、高校を辞め、若園をバックアップして真の麻雀プロを日本に根付かせる道に身を投じます。

まさにレジェンドのポジションの先駆者と言えますしう。



↑高浜さん（手前は主人公・若園）指導者向きの大人です

いやー、年取ると、こういう大人がフィクションに出てくると変な共感が出ていかんですね。

あと、高校時代のレジェンドに何があったのかについては、9ページ、小鍛治すこやんの項目をご参照ください。

宮永咲

本編主人公咲さん。無印でも咲さんと共通項のある麻雀漫画のキャラを幾つか紹介しましたが、あの時は見落としていたものも新たにいろいろ見つかりました。

例えば、『まんちよくスナイパーとどめ』の主人公、息ノ根とどめ。高い麻雀の実力を持ちながら、家族の過去が関係して麻雀を嫌っています。



↑牌に愛されているが麻雀は嫌いな女子高生

あるいは、筆者の麻雀漫画師匠であるizumick 師父より指摘があった、『帝王少年』に登場のライバルキャラ 平卓（ちなみに『ザ・ライブ』の主人公、オザワのパロディキャラです）。天才麻雀小学生である彼は、「場は平たくしなとね」を決め台詞に

な彼の決めシーンがコレ。



↑元ネタである『ザ・ライブ』のオザワも割と咲さんなんです。彼はそれに輪をかけて咲さんです。

確かに、これは……咲さん!?

さて、その咲さんですが、「全部ゴツ 倒す!!」やら阿知賀編3話ラストでの描写を見ても分かる通り、弱気キャラだった当初の面影はどこへやら、主人公でありながら全国編以後どんな人の心を失っており、すっかり魔王という称号が定着するキャラになってしまっており。このような麻雀漫画の主人公といって真っ先に思い出されるものといえ、『風の雀吾』の主人公、榊雀吾しかないでしょう。



↑「魔」が覚醒した雀吾。このセリフでやってること麻雀ってのがたまりませんね

なお、最終的に「魔」が覚醒してしまった雀吾は、妹である由利（雀吾の魔が覚醒した時のために、聖なる力がその体に封じられていた）と、聖と魔のハルマゲドンというべき麻雀対決を行います。これは、「魔」が覚醒した咲さんが、最後にのどっち（天使のアバターを持つ）と雌雄を決するという展開になることを示唆しているのではないのでしょうか……（意外とそれっぽくまとまった）。

宮永照

圧倒的な強さを見せつけるチャンピオン、照お姉ちゃん。

まだその打ち筋のすべてが分かっているわけではありませんが、現段階では、ものすごい勢いで上がっていくことと、上がるたびに点がどんどん高くなっていくということは言えましょう。

このような特徴がある麻雀漫画のキャラといえば、『理想雀士ドトッパー』の瓦鳩之介です。

鳩之介は、連続して和する流れを作り出すツボを押すことができるという能力の持ち主であり、それによって突き抜けたトップを取るから、「タテドトッパー」の称号を持っています。



↑タテドトッパー・瓦鳩之介



↑最初の1500点から、3300、3500、5700、8900とどんどん点が上がっていきます

そして、左図のように、照お姉ちゃんばりの、点を上げながらの連続和了を見せつけることができるのです。

えーと、スペースが余ったので真面目な話をちよつとしますと、本シリーズにおける「咲さん」はこの麻雀漫画で共通項がある！はそのほとんどが基本的にこじつけですが、このドトッパーや、『ミリオンシャントンさだめだ!』、『まんちよくスナイパーとどめ』あたりの、片山まさゆきの能力麻雀ものは参考にしてるところがあるんじゃないかと割とマジで思っています。

まあ、作品として片山つばいかというとまたちよつと違って、話の構造自体は、麻雀漫画でも片山作品より来賀友志作品（日本一の麻雀漫画原作者、詳しくは無印を参照）の方が近いんですが（例えば、「主人公まわりの、ストーリーを駆動する人間関係に、『対照的な親友でライバル』と『対立する姉妹（兄弟）』の2つの軸がある」という構造など、『てっぺん』と相似です。全体に、「天才」と「凡人」の扱い方とか来賀つばい）。

園城寺 怜

ジョインジョイントキイ。

と、よくネタにされる『北斗の拳』のトキや、古くは沖田総司なんかをあげるまでもなく、病弱者というのにはまさに定番キャラです。

そして、麻雀漫画界でそのような病弱強者といえど皆が真っ先に思い出すのはもちろん、阿佐田哲也の名作小説『麻雀放浪記』のコミカライズである『凌ぎの哲』に登場する、ブー大九郎はんですね。



↑大九郎はん。原作だとこんなエキセントリックな人じゃない

この大九郎はん、もともと原作の『麻雀放浪記』自体には登場しない、阿佐田の短編小説の登場キャラでして、その時は単に、盲目でありながらブー麻雀(昔の関西で流行っていたルール)の達人である

というだけの設定だったの

ですが、『凌ぎの哲』に登場することになってキャラが変化、盲目になったのは「常人以上の感覚を得るため自ら縫いこんだ」という

ことになり、「私は神だ!!」と言いながら最強の雀士として君臨、「1局に5回和することも1半荘に10回トップを取ることも可能」などと全盛期のイチロー伝説のようなことを言い出したり、口から自分の歯を含み針のように射出して相手を攻撃したりと大幅に謎のパワーアップを遂げました。



↑胃の中の含み釘や自分の歯を射出して攻撃。地虫十兵衛かお前は

しかし、盲目のため相手の捨て牌などを完全に記憶しておかねばならないことが脳に多大な負担をかけるため、長い闘いに耐えられない体であったことを見抜かれてしまい、流局を連発してスタミナを奪うという作戦によって敗れてしまいます。



↑大九郎はん、兵糧攻めにあっそうなります

玄さんもこの作戦を取っていれば、「松実玄で画像検索すると泣いたり震えたりしてる画像だらけ」などということにはならなかったでしょう……。

そして、麻雀漫画界では、もつと怜さんに近い人もいます。それは『麻雀無限会社39』に登場する代打ち・涼樹。



↑『麻雀無限会社 39』のラスボス格・涼樹

白血病で明日をも知れぬ命である彼は、次巡に誰かの当たり牌になる牌である「死に牌」が分かると

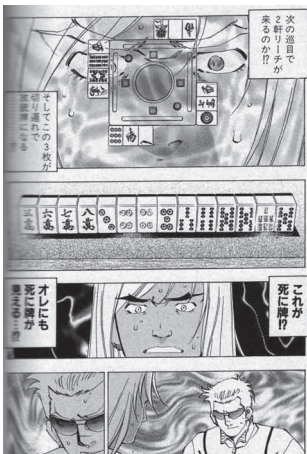
いう能力を持ち、1巡早くその牌を捨てることで相手に振り込まないという「死に牌打ち」を駆使して圧倒的な強さを誇ります。これは完全に怜さんの能力と言ってよいでしょう。

ちなみにこの「死に牌」、主人公の一人であるガングーも、涼樹との闘いの中で死を覚悟した際にこれを見る能力を身につけていましたし、怜さんが倒れてから1巡先が見えるようになったのは麻雀漫画的にごく正しいと言えますでしょう。

小走やえ

「二ワカは相手にならんよ」「王者の打ち筋」などと吹きまくってからの、キン肉マンビッグボディチームばりの秒殺されっぷりを見せたことで大人気の小走パイセン。

「王」、そしてやられっぷりが人気……。このキーワードから連想される麻雀漫画のキャラといえば、『ジョーイチ』に登場する「銀座の夜の帝王」こと倉田譲、彼しかいないでしょう。



↑ちとわかりにくいんですが、三萬・四筒・七索が「死に牌」です

ところで、ガンガン最新号(6月号)読むとえらい不安になるのですが、怜さん今後大丈夫なのでしょうか。なんか、一矢報いるすごい手をあがった後で「ツ……ツモったまま、死んでる!!」ってなる未来しか浮かばないのですが……。



↑人呼んで銀座の夜の帝王

大手企業の会長を父親に持ち、政財界の黒い事件で大きな金を握った男である彼は、「帝王」と呼ばれるだけあって、主人公である桜井章一と戦うこ



↑bot は毎朝 6:30 になるとこのセリフをつぶやきます

この姿は多くの麻雀漫画ファンの心を捉え、現在でも、なぜか twitter に bot (@dkuratayuzuru) が作られるほどの人気を誇っています。魅力的なキャラ、それは麻雀漫画の華なのです……(てきとう)。

とになるとあっても、「桜井章一? どこの馬の骨だ!」と吹くなど余裕綽々でしたが、最後はこのとおり。

麻雀漫画紹介ページ

以下、タイトル五十音順で、本文中で出てきた作品をつらつらとご紹介いたします。ただし、『ぎゅわんぶらあ自己中心派』や『天牌外伝』など、『麻雀漫画で読む咲-Saki-』の巻末付録で紹介済みの作品についてはスペースの都合もあって割愛してありますので、それはそっちをご覧ください。

掲載誌・単行本データの他に、個人的なオススメ度および単行本の入手難易度を記載しています。

入手難易度は、

★★……絶版だが古本屋でよく見かける・マーケットプレイスで捨て値

★★★★……揃えようとすると少し苦労も

★★★★★……なかなか見かけない・プレミアが付いている

とっていただければ（今回紹介している中には★と★★★★★がないですが、無印の方の巻末付録と評価基準は共通です）。

知らない麻雀漫画を探すお手伝いとかになれば幸いです。

小鍛治健夜

すこやかじゃない小鍛治すこやん。

作中では解説役に徹しており、おとなしそうな見た目の上に相手のこーこちゃんにいじられまくりとまるで強そうに見えませんが、その実、リオデジャネイロ東風フリースタイルで銀メダル、インハイ優勝、史上最年少の八冠保持者など数々の記録を持つ日本最強レベルの実力者なのは皆様ご存知の通り。インターハイでのレジェンドとの闘いでは、数年間にわたって麻雀を打てなくなってしまうほどのトラウマをレジェンドに刻み込んだというのですから相当なものです。

しかし、ここで疑問に思う方も多いはず。

はたして、ただか麻雀で負けたくらいでそんなトラウマが刻まれてしまうものなのでしょうか。

他の競技、例えば野球で、甲子園の準決勝でメッタ打ちにあったエースピッチャーがトラウマでその後投げられなくなるなどという話をそうそう聞かないように、普通に考えれば、このようなことが起きるとは考えにくいものです。いったい何が起ったのでしょうか。



↑殺した相手のミンチを肥料に
楽しく家庭菜園

の実は、「全自動卓天和」という完全無欠の必殺技を持ち裏社会に長年君臨する最強の代打ち。負けた相手をミンチにして自宅（墨田区）の家庭菜園の肥料にしてしまうマジキチです。

この謎を解くのに参考になるのが、『バード』に登場するライバルキャラ、「蛇」です。
「蛇」は、一見ただの冴えないオッサンですが、そ

本作のヒロイン・沙良は、かつて「蛇」と戦ってなすすべなく破れ、対局後に、体中の関節を外しては嵌め外しては嵌めで一晩中弄ばれた上に肩を大きく挟む傷跡をつけられるという陵辱を受け、5年経つても、卓に着いただけで泣いてしまうというほどのトラウマを植え付けられています。
そう、インターハイでの試合後、すこやんもレジェンドにこのような仕置を与えていたと考えれば、レ



↑麻雀で負けた相手に仕置きをする「蛇」

ジェンドの数年間も無理からぬ事と考えられましょう……。

いずれにせよすこやん、とぼけた顔をして恐ろしいお方です。

しかし咲さんなどを見ても分かる通り、一見無害でおとなしく、弱っちそうに見える人間に限って鬼畜というのが麻雀漫画という世界なのです……。

もつとも、今のすこやんを見る限り、こーこちゃんと出会ったことで真実の愛を知り、現在では人の心を取り戻していると考えるのが妥当なのかも知れませんね（何が妥当なのか）。



真・麻雀伝説

風の雀吾

灼熱編

原作：志村裕次 作画：みやぞえ郁雄	
「漫画タウン」 82年～83年ごろ 連載 グリーンアロー出版社全2巻	
オススメ度：★★★★	入手難易度：★★★★

あらすじ

中国での麻雀修行から帰ってきた榊雀吾が見たものは、何者かに襲われ、虫の息の父の姿だった。謎の集団・夜叉連合が父を襲い、封印されし十二の悪魔の雀技・「雀神技」を奪っていったことを知った雀吾は、父の仇を取るため戦いに挑むが……。

SF麻雀漫画の開祖にして金字塔。「超音波で相手の思考能力を奪う」「太陽のエネルギーで相手を焼き殺す」などといった凄まじい超能力技が飛び交うトンデモ麻雀でありながら、全2巻で伏線がきっちり回収されるプロットはかなり緻密という恐るべき作品。何度か本などで紹介されており、意外と知名度あるため、ちよっとプレミア付いてます。

ちなみに、当サークルの同人誌『麻雀漫画研究Vol.2』に、本作の細かい紹介と作者のみやぞえ氏へのインタビューが収録されていますんで、気になる方はどうぞよろしく（ステマ）。咲の同人界傾向調査も載ってますけん。



千金の闘牌デカ

麻雀無限会社 39

本そういち（闘牌原作：安藤満）	
「近代麻雀オリジナル」 01～06年3月号 連載 竹書房全8巻 コンビニコミック版全4巻	
オススメ度：★★★★	入手難易度：★★★☆☆

あらすじ

麻雀仲間の大学4年生、高井とガンジーの二人は、就職を決めた会社の社員寮へ引っ越す当日に内定取り消しを食らってしまふ。就職先どころか家まで失った二人は、麻雀で食べていく会社を設立することにした。その名も「麻雀無限会社ザンク」！

『フリー雀荘最強伝説 萬』など、90年代から00年代にかけてかなり多くの麻雀漫画を発表している本そういちの代表作の一つ。

前半は割に快調だったものの、04年に安藤が亡くなったこともあって後半はパワーダウン、ラストはちよっと消化不良気味に。やはり安藤が協力していた作品である『むこうぶち』（天獅子悦也）も安藤の死後パワーダウンしたことを考えるに、安藤満という人間の存在の大きさを感ぜさせます。

なお、コンビニコミック版では『麻雀無敵道ザンク』に改題されております。



まんちやくスナイパー

とどめ

片山まさゆき	
「ヤングマガジンアッパーズ」98年1号～99年14号連載 講談社全3巻	
オススメ度：★★★★☆	入手難易度：★★★

あらすじ

卓上のターゲット1人を徹底的に狙い打つという打ち方で勝利を続ける女子高生、息ノ根とどめ。彼女には、12年前に高レートの勝負で父を破り死に追いやった3人の麻雀打ちを探し、打ち負かすという目的があった。

3人のうち、とどめと同じく狙い打ちの雀風を持つ男「葬儀屋」、ダブル役満を見逃してトリプル役満を和了るほど高め狙いにこだわって勝つ男「ミスタースカイ」の2人を倒したとどめは、プロ麻雀界に君臨する男「牌皇帝」こそが3人目の仇ではないかと当たりをつけたが……。

『ミリオンシヤンテンさだめだ！』あたりと並ぶ、能力麻雀系の最高傑作。中盤からサスペンス要素の強まるシリアスな物語展開（片山作品では珍しく、麻雀で人が死ぬ。絵柄のせいでイメージがないんですが、この人実はずサスペンスにも才あるんです）と、派手な闘牌がうまく絡んでいます。オススメ。



六田登

眠り玉三郎

六田登	
「近代麻雀ゴールド」01年6月～03年3月 連載 竹書房全3巻	
オススメ度：★★★★	入手難易度：★★★★

あらすじ

会社社長の三男坊で何一つ不自由なくぼんやりと生き、社内では居眠りばかりの和光玉三郎。ひょんなことからヤクザの麻雀勝負に巻き込まれたことで、玉三郎の中に眠っていた何かが目覚め始めた――。

『ダッシュ勝平』『F―エフ―』などといった、アニメ化もされたヒット作で知られる六田登、こんな麻雀漫画も描いていました。

なんだかんだで漫画力の高いベテランの作品だけに、尖ったところはないものの、きっちり読ませる内容になっています……と思ったら、唐突に山で猿と麻雀を打ちだす展開になるのでかなり驚かされました。そういう漫画だったん！

あとがき

またしてもこの「咲-Saki-」同人なのかどうかもよくわからない本が出ました。

今回も美麗な表紙を描いてくれたのはヨモギちゃんです。いつもありがとう。表がまこ先輩で裏がモンプチ一家という、なんか見たことない組み合わせになっておりますが、これは、俺が「モンプチさんとまこ先輩描いて」と注文したからです。まこ先輩はOPにも出てくる阿知賀編の重要キャラですし、モンプチ一家は千里山を除けば阿知賀に勝った唯一の高校という超強豪ですから何の問題もありませんね。

……いやですね、この前『麻雀漫画研究 Vol.2』という同人誌で、「咲-Saki- 同人の傾向調査」という、咲-Saki-の同人誌600冊ぐらいのデータを集計し、表紙に描かれているキャラやカップリングなどの統計を取るという企画をやったのですが、したらまこ先輩が案の定とても少なくて俺が泣いたからです。表紙に描かれてる件数、既にエイスリンちゃんに抜かれてるんですよ！ あんまりですよ！ まこ先輩かわいいやろ！

えーとそれはともかく、今回の本は聖地オンリーということで暫定的に出したもので、全国大会に一区切りなどついたらちゃんとしたのをあらためて出したいと思っております。宥お姉ちゃんとか、なんかなんもこじつけを思いつけなかったですし……。

奥付

麻雀漫画で読む咲 -Saki- episode of side-A

発行元 フライング東上

連絡先 twitter id : vhysd

Website : http://www.exa5.jp/sfs_diary/

mail : vhysd486@gmail.com

発行日 2012 年 6 月 10 日 発行

企画・執筆 V 林田

カバーイラスト フミヨモギ (<http://rozentrunk.web.fc2.com/>)

※本書の無断転載等は、する人おらんでしょうが好きにしていいますよ（カバー等、筆者が書いたのではない部分を除く）

麻雀漫画で読む **ロキ**



episode of side-A



フライング東上